



書  
簡  
集

片山敏彦著作集 第十卷

片山敏彦著作集 10

© 1972 Misuzu Shobo

1972年9月30日 第1刷発行

¥ 900.

著者 かた やま とし ひこ  
片山敏彦  
東京都文京区本郷3丁目17-15  
発行者 北野民夫  
東京都新宿区改代町24  
印刷者 田中昭三

発行所 東京都文京区  
本郷3丁目17  
郵便番号 113 株式会社 **みすず書房**  
電話 814-0131(代)  
振替東京 195132

(第10回配本)

理想社印刷・鈴木製本

I



## 田内静三宛

一九一六年三月二十九日  
東京・目白

毎日何して遊んでるの。もう愈々四年生<sup>\*</sup>になつたんでせう。

江戸川の桜は未だ蒼が堅いけれど桃はそろそろ咲き始めました。東京は此から歓楽の都になるだらうけれど僕等はみじめな暗い世界に待たれてゐます。

予備校は早稲田にしました。近くつて都合がいいもんで。

四年級は一等愉快で一等苦しいときだつた様に思ひます。化学は始めからよくわからせてゆくといい。始めがわからないと全くいやになるんだから。

ああ青葉の夏休みが早く来るといいけれどねえ。都で御目にかかる日までどんなに待遠しい私達だらう。今日は岩原と古田先生と愛住町の友達と砂土原町の友だちとを訪ねたけれども誰ひとり居ないので癪にさはつちやつた。あしたからもうあんまり出歩かないで勉強しなければ

ばならないと思つてゐます。

神楽坂は相変らず賑かです。牛込館には「アントニイとクレオパトラ」の看板がでてゐました。

今、三田のグラウンドで中学の野球戦をやつてるさうです。今年からは一中（高知の）も盛になるだらうね。大いにやり給へ。部長は誰先生になるかしら。

僕の内の裏の方にね、久本為蔵つてかいた札がでてゐますよ。きつとそこなんでせう、君の御友だちの所は。

君のチウリップはもう咲いた？

目白の高台にもう夕の色が迫つてきた。

くだらないことを長く書きましたね。どうも失礼。お暇のとき御たよりを下さいな。

松沢君にも関口君にもよろしく。

とし彦

二十九日 EVENING

静さま

\* 当時、田内氏は高知県立第一中学校（現在追手前高校）の四年生であり、同じ中学の二年先輩であつた筆者は、この年の九月から岡山の第六高等学校に進学する。

## 田内静三宛〔官製はがき〕

一九一九年二月二十九日

高知市

## 斎藤知子宛

一九一九年十一月二十日  
高知市追手筋五七二

今、御葉書が来しました。僕も本当に御無沙汰ばかりしました。試験が近くて忙しいでせうね。

僕は明日国を出ることにしました。神戸で吉田〔泰司氏〕に逢ふ約束です。久しぶりに逢へるのでたのしみです。お話しする事が沢山あると思ひます。ブレークとオカリナは忘れずに持つて行きます。待つてゐて下さい。

僕は大学は独乙文科の試験をうけることにきめました。\*  
これからは自由に勉強します。本気になる気です。いい一生を送りたいと思つてゐます。では御話しする日をたのしみにして。

\* 医家の長男であつた筆者は家業をつぐため第六高校第三部〔医科志望〕に入学したが、ゲートルを知るにおよんで志を變えた。

御手紙とお写真をありがたう。両方とも僕には言ふ迄もなく大きなよろこびでした。

昨日は起きてゐられた由、うれしく思ひました。お身体をくれぐれも大事にして早くお元気になつて下さい。神経を起さないやうにしてできるだけ養生する事をのぞみます。

お手紙の中にあなたの善良な優しい心もちが感じられて僕はなつかしい気がして読みました。美しい心を本当に持つ事ができるといふ事ほど立派な事はこの世には決して決してありません。人に氣づかない心の奥に立派な宝を育て上げて下さい。そうしてその宝の光で僕を高い所に引き上げて下さい。僕はあなたを知り、あなたに愛を持つやうになつてから今迄知らなかつた事を知つて来るやうになりました。今迄知らなかつた心の落つきと、生活に対して沁々と素直な氣持になれるやうになります。

た。それを深く感謝してゐます。

あなたはこないだ星や月や夜の空の美しさにはただ綺麗といふよりもつと違つたものがあるやうだと言ひましたね。それは本当です。そして大切な事です。

普通にいふ「きれい」と、私達のたましひに役立つ本当の「美」とは違ふのです。ただのきれいさは見てゐるうちに空虚な気もちになります。本当の美は見れば見る程、何かしら生きたものが感じられて、だんだん味が深くなつて、無限なものに触れてゐるといふ感じがして来ます。毎日星や月を見ても、ちつとも飽きないで、見れば見る程その美にうたれるのは月や星のうつくしさは無限な所から来てゐるからだと思ひます。あのやうな美が私達の心に育てられて、それが自づと外面や生活にも滲み出るやうになれば理想的です。そのやうな美は俗な人には気づかれなくても心ある人にとつてはこの世を明るくし、暖くする親しいともしびのやうに尊いものなのです。

あなたはこないだ小さな女中に嘘を吐かれて嘸不快だつたでせう。嘘を吐かれたと思ふときの気もちは本当にいやなものですね。こつちの信用が大きいだけ不快も大

きいわけです。嘘を吐かなくてはうまく行かないといふ事は今の世界で實際いやな事だと思ひます。

けれど、私はこないだの夜、あなたがあの子に着物を与へたといつたとき、私はあなたがそれを純粹な気もちからした事が感じられて、心の底でほめて上げたい気がしました。(あの場合、あなたが着物をやりたいのにやる着物がなくつてやらなかつたとしても、私は同じ位の感じを感じるでせう。)そして、あなたの愛とその愛の実現である行ひとがきつとあなたのためしひを生長させてゐるだらうと思ひました。だからあなたは嘘を本当だと思ひ込んだ機会に、いい事をしてしまつたわけですから。そうしてそれだけ自分を育てたわけなのです。だまされても本当の得とくをするのが、愛だの真理だのの神秘な所です。愛の力はこの世で一番強いといふのもさういふわけだと思ひます。

武者さん〔武者小路実篤〕がお母さんから「お前は人からだまされる運星だから用心しないとイケない」といはれたとき「しかしだまされればだまされて得をする人間だから安心です」といつたと書いておました。

しかし嘘を吐かれると人間そのものに信用が持てない



気がしてさびしい気がしますね。一度だまされるところだけ人を信じる事がむづかしくなりますから。けれど、こつちが本当に高い所に立つて自分をだます人間の動機をくわしく知る事ができるやうになれば、今度は不快よりもあはれみを感じる事ができるやうになり、人間といふものはこんな事で人をだましたりしなければならぬものか、案外弱いあはれなものだ、といふ気になれば、高い慈悲心で人を許したり包んだりできるやうにもなるのではないかと思ひます。勿論いつでもそんな高い気もちで他人に対する所まで行き切るのは大変でせうが、しかしそんな高い心持にもなり得るものだと思ふ事は希望を与へてくれます。

今朝はあなたの気分はどうでせうか。午後か夕方にはお逢するのがたのしみです。

あなたへの愛を思ふとき私は一番自分の無力を感じます。あなたへの愛は私自身のたましひに与へる命令を含んでゐます。私はこの命令に従つて自分を少しでもあなたを愛するに値する人間、あなたから平気で信用して貰へる人間にならなければなりません。

ではお逢するまで左様なら。

後でベエトローヴェンの音楽を聞かして下さい。

敏彦

十一月二十日 日曜日の朝九時過ぎ

知子様

田内静三宛

一九二〇年一月二日  
高知市追手筋

静三君

今君の手紙よんだ。知子さんのもの。

御無沙汰してしまつた。一昨日(君の御誕生日)君に手紙書きかけたが、落ちつけなく、やめてしまつた。

「青空」昨日ついた。飛びつくやうに見た。今度は君達の御蔭で、ずぶぶんいい雑誌になつて心から感謝してゐる。君は始めての校正でずぶぶん面倒だつたらうと思ふ。何しろ、本当にありがたう。吉田からもずぶぶん感謝してゐるといつて来た。吉田の脚本、昨夜よんで感心した。吉田はずぶぶんいいものを持つてゐる。吉田がいい脚本家になつてくれることを祈つてゐる。

僕も今年はきつとやる。今年こそは自分の一生の道筋に、重大なエポックをつくるべき年の気がする。本気になりたい。たましひを深く深く掘り下げて行きたい。祝福されてあれ、僕の二十三の年よ。

僕は毎日、温い日を送つてゐる。これは「母の家」以外のどこでも味はへない落ちつきだと思つてゐる。毎朝、窓をあけると青空の美しさに驚き悦ぶ。僕の部屋の軒には雀の巢があるので毎朝、きつとその歌が晴れやかにきこえる。それから、朝早く、パツハかモツアルトをきくのが何よりのよろこびだ。パツハは僕のためしひを不思議な世界につれて行つてしまふ。僕は昨日の朝も、それをきいて、心の中でアヴェ・マリア！ アヴェ・マリア！ といひ乍ら、「永遠の処女」なるマリアの前にひざまづいてゐたのだ。君の御誕生日の為に、ポチチェリの本を送る。アンジェリコ、シャヴァンヌ、パツハ、モツアルトは僕の今の師だ、母だ、父だ。

この頃の夜はいつも、星と月とが冴え渡つて美しい。毎夜、それを見るのが、たのしみだ。君は「時計」の名人だつてね。「恵まれ」てゐるね。では御気嫌よう！今年が君にとつてよき年であるやうに祈る。僕は一月一

杯は此処にゐたい。吉田が来るのでたのしみにしてゐる。

敏彦

一月二日朝

\* 筆者が田内静三、吉田泰司氏らと発刊した同人雑誌。  
\*\* トランプの遊びの一つ。

田内静三宛（官製はがき）

一九二〇年一月十一日

高知市

御手紙有難う。君はいい日を送つてゐる由、僕も悦しく思ふ。僕も毎日静かな日を送つてゐる。わりに勉強もしてゐる。僕は自分の一生を、捧げるべきものの為に捧げたく思つてゐる。それが何であるか未だ自分にもわからないけれど、その事ばかりを此頃考へてゐる。『ファウスト』の第一部を心の底から驚嘆しながら読んでゐる。これが人類の上に如何に大きい悦ばしい啓示を与へる本かといふ事がわかりかけて来た気がする。本当にこれからだと思つてゐる。いい日をいひの。

## 齋藤知子宛

一九二〇年一月十七日  
高知市追手筋五七二

御手紙上げます。

昨夜は静かな晩でした。東京の事を思ひ出してゐました。星が綺麗に光つて、天の奥まで見えさうでした。本当にあの平和な静かな美しさを見てゐると、地上の不幸や、惨酷な事が、あんまり不調和な気になりますね。悲しめたり、悲しんだりしなければならぬのは人間ばかりの気がして淋しくなりますね。けれど、私達は、いかは地上にも、確かな平和が恵まれる日を待ち望み、愛の真理が、実現される事を信じ祈つて、生きて行くよりほかに仕方がないと思ひます。本当の幸福(確かな福祉)は、本当の愛の中のみあるといふ事は、何といつても本当の事だと思ひます。「愛し得るといふ事が何よりの幸福だ」といふ意味の事をメテリリンクが言つてゐます。そして、本当の智慧(不幸をも祝福に変へ得る唯一の智慧)は、知識からでもなく、理性からでもなく、た

だ愛(最も高い意味で霊的な愛)からのみ得られるものだとも言つてゐます。

やはりメテリリンクの『智慧と運命』の中に、エミリー・ブロンテといふ英国の女の人の話がありました。

(昨日それを読み返して感動したので書きます。)エミリーは、大層悪い父と弟を持ち、善良な母は早く死んでしまつた為、家庭的には不幸な、不幸な、何一つ慰めも得られないやうな一生を送つて、二十九の年に死んだのですが、その静かな、けれど燃えるやうな愛と許しとの智慧によつて自分一人の深い幸福と喜びとを、短い一生にはつきりと味はつて死んださうです。このやうな人の事を考へるとハンプルになり希望が湧きますね。

エミリーが死に近づいて、作つた詩に

私の心霊は臆病ではない。

私の心霊はこの世の嵐の中でふるへるやうな事はな  
い。

私は天の栄光のかがやきを見る。

信仰は恐れから私を抱き取つて、静かに輝やいてゐる。

.....

こんな美しいのがあります。

私は、女の人のたましひには美しい、大きな特別な使命が与へられてゐるのではないかと思つてゐます。それは、人間の心靈の最高の仕事を完成するときに不思議な「導き手」となる使命です。ダントは「女性」を通して天国に行く事ができました。ゲーテのファウストも「永遠に女性なるもの」に導かれて、罪を許され聖母の元に還ることができました。常に偉大な思想の背景となること、悲しみに耐へて愛すること、それらは女の人の恵まれた使命といふ気がします。

調子に乗つて理屈ばかり書きました。

後三四日のうちには吉田に逢へると思つて楽しんでゐます。弥知子様（斎藤家の長女）も来て下さると、どんなにかと思ひますが、これは少し当てにならない気がします。万一の喜びを予期して棧橋に迎ひに行く朝をたのしみにしてゐます。僕は時計が三度できました。東京で一度できたのを入れて四度できたわけです。

「青空」は東京では売れてゐるでせうか。僕の所では、本屋で七冊と、自分で二冊売りました。本屋で売るのは損ですが、知らない人が、読みたたくて買つて行くのだと

思ふとその方が、ずつとうれしい気がします。それから大阪の本屋へ置いてくれるやうに友達がいますから大阪市西区阿波堀通四ノ二和田氏方弘田進宛に五部送つて下さいませんか。

東京は風邪がひどいさうですね。風邪お引きなさらないやうにくれぐれも祈ります。僕も熱心に含嗽してゐます。

岡崎（精三氏）から手紙が来ないのですが、元気にしてゐるでせうか。

一月十七日朝

知子様

敏彦

田内静三宛（官製はがき）

一九二〇年一月二十七日  
高知市

昨日検査があつたが僕は兵役免除になつた。思つたよりも自分の身体のわるい事が少し情なくなつた。元気がよければ明日上京のつもり。プラトンやゲエテの顔が目

の前にちらつく。早く上京してしつかり勉強したい。ではまたお逢ひするのをたのしみにして。

齋藤知子宛

一九二〇年三月十五日  
〔封筒紛失〕

今日は失礼しました。

あなたはいつも「青空」に深い愛を持つて下さるのでうれしく思ひます。本当の愛にむくみるにはまだ力の足りないことを感じ、すまない気さへします。けれど、いつかは、いつかはと思つてゐます。私達の道を本質的に見てゐて下さるならばきつと好意に御酬ひする日を生むつもりです。メエテルリンクなどのことを思ふととてもかなはないといふ気持と、大きい希望とを一所に感じます。本当にえらい人間になりたいと思ひます。人間の一番本当の幸福を築く為に働く人は一番たふとい人だと僕は信じてゐます。キリストや釈迦などは一生人間の深い幸福に就いてばかり話しました。

私はあなたの所へ行くと、自分自身を清く見せ過ぎた

り、クリスチャンに見せ過ぎたりするやうで後で、気がとがめるので此処に書きます。

私はまだクリスチャンではありません。殊に、基督やお弟子達の事を考へると、今の教会的なクリスチャンには、ある反感さへ感じがちです。私の母の信仰などは実にいい加減なものです。私はまだ本当に自分の固い信仰も神も持つてはゐません。それをばかしく思ひますが、ただ自分自身をうちから本当に築き上げて行くよりないのです。何事も本当にこれからです。

しかし、本当によき生活をしやうと望む人ならば、心のうちに屹度神の愛や個人以上のものに対する宗教的要求を感じるのが本当です。私も自分の心にそれを感じてゐます。私が希望やよろこびや權威を生み得るならば、それはただ、その「感じ」からばかりです。今の教会的クリスチャンの多くが偽善者になるのは、神を本当に求めてゐないのに求めてゐるらしい態度を取るからなのです。そんな所には本当の神もよろこびもある筈はありません。神の名前を知らなくても、本当にうちに愛や感謝や尊敬を知る心には必ず神の愛が与へられるのだらうと思ひます。

私自身の高さからいへば、まだこんな事を他人にいふだけの力もないかも知れませんが、理想的に私が感じてゐることの一つとして此処に書きます。何しろすなほな自由な心持で少しづつでも本当の事を自分自身の智慧として得て行くほかはない気がします。

私の他人に対する態度は本当に臆病で弱くて不自由です。いつもそれを私は恥ぢます。何よりも、他人の自由なすなほな心をこばむやうにするこの不自由さを恥ぢます。いつかはそれを私は必然な公な方法によつて征服するつもりです。うちに本当の權威を生むことによつて征服したく思つてゐます。

エマーソンやメテリンクのやうな私の最も尊い師達も性格的に或る臆病さ (shyness) を持つてゐたといふ事をきいて私は自ら慰めてゐます。

私はこの臆病さから本当の勇氣を生むつもりです。すべてはこれからです。いつまでも消極的で否定的では終らないつもりです。今は希望やさびしさを一所に感じてゐます。何しろ、永遠なものに触れなくては始まらないのです。どうしてもこの世的な一時的な外面的なものだけではだめです。これからの道を見てゐて下さい。今度

雑誌を出す時はこの前よりはずつと進んだものを書きたいと思ひます。

私はあなたと一所に過す時間を悦ばしく思つてゐます。あなたにこれだけの事を書いて置かないと気がすまないのを書きました。いい日を送つて下さるやうに祈ります。もし下宿がありましたら知らせして下さい。

敏彦

三月十五日夜

知子様

齋藤知子宛

一九二〇年四月十五日  
西大久保一〇四 岡本清吉方

昨日は御話して嬉しく思ひました。

今日は美しい空になりましたね。僕は昨夜はいやな夢を見ました。新聞に父の死亡広告の出でゐる夢です。何かも御しまひになつたやうな気がして絶望的に泣いてゐる所で目がさめて実に嬉しく思ひました。父や母の死ぬ事を考へるとたまりません。僕はよくその夢を見るの

で閉口です。想像するよりも、夢の中では実に心細い氣持を味ははされるのですから。「どんな聖者でも、その父や母は私達の父母と同じく死ぬのだ。誰でもその不幸を味ははないといふわけには行かない」とメエテルリンクはいつてゐましたが、僕はまだこの不幸に克つだけの力はありません。それで、その事を考へると心細くなります。もう、あんな夢は見たくないと思つてゐます。見れば仕方はないので、いつかその事実に就いても、うち克てるやうになりたいと思ひます。昨夜はあなたの夢も見たやうに思ひます。

私達は先づ第一に、自分自身を本當に愛し得るやうにならなければならぬと僕は此頃心からさう思ひます。それはやさしいことのやうで、何よりむづかしく何より大切なことだと思ひます。

私達自身の中にはいろいろたふといものが、まだ自分にも氣づかれずに眠つてゐます。私達は本當に自分を愛することに依つてそれらの宝を目覚ませることができません。どれ程沢山の人々が、自己を愛することを知らない為に、自分の中の宝に氣づかずして一生を送ることでせうか！ 愛とか信仰とかといつても、それが外から附

けられたときには私達にとつては寧ろ不必要な重荷になります。自分を本當に愛し育てやうとする人ならば、いやでも、自分の心の底に愛や信仰が目さますのを見ないわけには行かないでせう。眞の宗教心の芽とは誰れの心の奥底にもひそんでゐる、本當の「自己」の要求なのだと思ひます。献身とか自己犠牲とかといつてもそれが、外から強ゐられたり、仕方なしに行ふのでは貴くありません。何故ならそれらの行為がたふといのは、これらの行為をうちから生かす自發的な愛がたふといからです。献身的行為が自分にとつて眞に自分によるこびを与へる唯一の道であると心から感じ得るその智慧がたふといからです。それだから献身とか自己犠牲とかいふ言葉は寧ろ、そと側からつけられた名前前で、その行為を行ふ人にとつては自己を見棄てるといふよりも、どこまでも自己をまもり、自己を愛し、自己を生かす必然の道を歩くといふことになるのだと思ひます。

確かに純粹な献身や自己犠牲は美德です。長与（善郎）さんも世界中で日本の女性位この美德を恵まれてゐるものはないと書いてゐました。けれど、今迄の日本の女人は形式的な間違つた道德の為に、この美しい素質をも、

かなり外面的な、形式的なものとして行爲するより仕方がなかつたのは不幸な事であつたと思ひます。これからは、自由に、純粹に、これらの美しい行爲が生れるときが来るのだと思ひます。

それ故、私達は、愛とか信仰とかといふ言葉に拘泥したり、それらの言葉から或る圧迫を感じたりする必要は少しもありません。私達は自由に、すなほに、又或る意味ではわがままにけれども熱心に自分を本当に愛し育て、そこに喜びを感じその喜びを、行爲の中に生かして行けばいいと思ひます。

自己を本当に愛するといふ事は、自己の都合のいい事をする、自己の利益をはかるといふ意味ではなく、寧ろ、結果から考へれば丁度その正反對の事になります。自己を愛するといふ事は利己主義ではありません。本当に他を愛するに至る道の必然な第一歩です。自己を愛することを知らないものは決して他人を本当の愛で愛することはできません。

キリストほど自分を愛した人はほかになかつたので、キリストは誰よりも深く万人を愛することができました。キリストが自己を愛しないなら、何も苦しんで十字架な

どを負ふ必要はなかつたでせう。「み心のままになさせ給へ。」といふ祈りは、宗教心の絶頂です。どこまでも、どこまでも自己を本当に愛し育てた末に、思はず自分の心から流れ出る、人間の云ひ得る最もたふとい言葉です。この言葉は決していい加減な動機で使はれてはならない言葉だと僕は此頃しみじみ感じます。

それ故に、自分が今、現在の心の高さに居て、どうしても愛し得ないものは、誰が何といつても愛する必要はありません。又、愛してゐるやうに見せかけてはならないと思ひます。ただ愛し得ないことを、悲しむべきです。憎まずにゐられないことを苦しむべきです。そこに「神様、私の今の高さではとてもこれを愛することはできません。愛してゐるといつては虚言ウソになります。いつかは、私の愛がもつと大きくなり、今は憎まずにゐられないことも愛し得るやうにして下さい」といふ祈りが生れて来ます。本当の祈りとはこのやうな所に生れるもののだと思ひます。

奮な金持の老婆が、平気で下女をひどくしたり怒つたりし乍ら病氣の時や、損をした時だけに「神様、神様」といふのは祈りでも何でもなく、ただ、無智から起る利



己心の変形なのです。宗教心とは何の関係もないだけでなく、丁度正反対の心持です。かういふ利己心を利用する所に、金儲けの非似宗教が盛になります。

実際、まだまだこの世は淋しいことが多すぎます。まだまだ今よりも恐ろしいときが来さうな気がします。戦争も、まだ国家が無智で利己心が強い間はなくなりさうありません。流される必要のない血や涙がまだ流される時期はかなり続くでせう。悪や罪の根は根絶やしすることがむづかしいのです。だが、個人個人に就いて考へて見ればやはり人間は少くとも、「神の子」の子です。キリストもいつたやうに人間の身体は神の殿堂です。いつかは約束された平和が地球を包む日が来るといふことは本当でせう。それを信じて、自己を愛し、育て、よろこびを味はつて行くより仕方がないのです。人間はたしかに、結局は不幸よりも幸福の為に、悲しみよりも悦びの為に造られたものだと思います。そして、よろこびと幸福との扉を開く鍵は恐らく私達自身の胸の中に埋れてあります。それを探しあてて磨くことが必要です。

かなり長く書きました。高い所に立つて独りでお説教したやうな気がして少し気が引けます。でも、書いてゐ

るうちに、自分でもはつきりした事があつて得をしめた。自分を高く見せすぎたりきよく見せすぎてゐたりする所があつたら恥かしく思ひます。これから、自由いろいろな事をお話したく思ひます。僕は他人に対してはいつも自由さが足りなく、親しみを容け入れる態度が足りないのに人に気の毒に思ひます。

いろいろな事にこれからは本氣にぶつかるともりなのです。いつまでも臆病ではゐないつもりです。少しお山の大将になり過ぎたやうですね。よかつたら手紙に書いて下さい。久しぶりに長い手紙といふものを書きました。

さよなら。

四月十五日

知子様

敏彦

齋藤知子宛

一九二〇年四月十九日

西大久保

御手紙昨夜拝見して大変嬉しく思ひました。あんな長